

キャンパス名	千葉キャンパス				
授業番号	10651001				
授業名	公共哲学	形態	講義	単位	2
担当教員	鏡 諭				
開講学期	2018年度 前学期	曜日・時限	火曜1限		
授業目的	公共哲学の概念の整理を行い、「公共とは何か」を自ら考え、公共の意味と公共政策が持つ機能について理解を深める。				
授業内容	<p>社会の中で行われる様々な私的活動から、行政が担ってきた公共活動への変化と、求められる公共性の意味について考える。</p> <p>実施主体については、時代とともに変化をしてきており、公共事業、公共政策、公共福祉、公共住宅、公共施設、公共交通、公共機関、公共料金など「公共」という言葉を使う事例は多岐にわたるが、過去によける様々な学説から公共の意味を学習し、政策としての必要性やについて検証する。</p> <p>また議論する事で、公共を共有するプロセスを学習するため、後半はアクティブ・ラーニングに配慮した学びに努め、一つのテーマに対して自己学習、グループ討議、発表、討論、相互評価による学習を行う。</p>				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・日々の暮らしの中で、公共性の高いと思われる行為や事業について発見する。 ・公共とは何かを、おおよその概念として理解し、説明ができる。 ・公共部門における主体については、行政のみならず民間セクターやNPOセクターについても責任や役割が広がっている事を理解する。 				
ディプロマポリシーとの関連性	<p><コDP2-(1)> コミュニティ政策学の基礎的かつ専門的な知識・技能を体系的に身に付けている。</p>				
授業形態	前半は、基本的には講義方式による授業を行うが、アクティブ・ラーニングとして随時学生への質問や意見を求め、双方向の授業を行っていく。また、学生は事前学習として課題の整理を行い、事後学習として適宜レポートの提出も求める。さらに、後半はある課題に対して自ら調査し、自分の意見をまとめ、それをグループ単位で議論し、グループ内での意見の交換を行い、公共概念の確立に向けて決定プロセスによって「公共概念」を共有する。さらに、授業時間中に適宜試験を行うが、結果については学生に返却し、強み弱みを確認し、自身の課題克服につなげる。				
事前・事後学習の所要時間	講義科目：90時間（事前学習2時間×15回＝30時間、事後学習2時間×15回＝30時間、講義時間：2時間×15回＝30時間）				
テキスト	<p>「公共哲学とは何か」山脇 直司著 ちくま新書刊 上記書をテキストとするので、必ず購入する事。</p> <p>さらに、基本的には、教員が適宜レジュメ及び資料を作成し、当日の授業内容を記載テキストを配布する。</p> <p>また、次回の学習内容のヒントを示し、事前学習の機会を提供する。</p> <p>その他の参考文献は以下のとおり 「永遠の0」 百田 尚樹 講談社文庫刊 「マイケル・サンデル公共哲学」 鬼澤 忍訳 ちくま学芸文庫刊</p>				
評価方法	公共哲学にかかる基礎的な理解及さらにそれを発展させる独自の発想等について、授業参加、授業中の発表・意見交換、事前・事後学習、レポート、授業内試験により総合的に評価する。 なお、授業中の携帯・スマホ使用、私語及び居眠りは、マイナス評価となるので要注意。				
評価基準	授業参加（授業中の質問・発言）20%、課題レポート等（事後学習・事後学習、レポート、小テスト）30%、試験（授業内期末・中間・プレゼンテーション）50%合計100点満点				
試験・レポート等のフィードバック	適宜レポート提出を求める。レポートは評価後、学生に返却し、振り返りを行う。また、授業内中間及び授業内期末の試験を行い、採点后試験を返却し、解答について解説を行い、学修を深める。				
注意事項及び履修条件	本講義受講後は、特に将来公務員を目指す人は、履修をすることが望ましい。 また、本講義後に後期科目である公共管理論を受講することが望ましい。				
S：100～90、A：89～80、B：79～70、C：69～60、D：60未満					
第1回					
事前学習	講義要覧を読み、授業の目的と到達目標を確認する。				
授業内容	<p>オリエンテーションを実施する。受講にあたっての確認事項及び講義体系についての説明し理解を得る。</p> <p>また、どのような参考文献を利用するかを説明し、全般にわたって注意事項の説明を行い、授業の理解を深めるように努める。</p> <p>事象に対して自ら考え発言する事を基本とする。公共とは、哲学とは何かを、日常的な生活の視点から考え、私的活動と公共活動の意味や政策の成り立ちについてのイメージを持つ。</p>				

事後学習	質問表を配布し、学生の理解度をはかる質問を行う。回答により、授業の理解度を深め、理解不足の言葉や説明の項目を把握し、その後の予習・復讐の参考とする。
参考文献	「公共哲学とは何か」山脇 直司著 ちくま新書刊
第2回	
事前学習	日常生活を送るなかで、公共性に関する事象について、調べて講義中に発表する。
授業内容	公共哲学の歴史と国内外の公共哲学に関する学説について知り、考え方の本質について理解する。(1回目)あわせて、皆で公共性を考える。
事後学習	講義中に指示する課題である「公共哲学に関して考えること」をレポート用紙(A4版用紙400字程度)に1枚を作成する。
参考文献	「公共哲学とは何か」山脇 直司著 ちくま新書刊
第3回	
事前学習	大学生活を送るなかで、公共性を意識したことはどのようなことがあるか考える。
授業内容	公共哲学の歴史と国内外の公共哲学に関する学説について知り、考え方の本質について理解する。(2回目)
事後学習	テキストを通読し講義の内容を復習する。わからない項目について、まとめて次回質問をする。
参考文献	「公共哲学とは何か」山脇 直司著 ちくま新書刊
第4回	
事前学習	個人の利益と集団の利益の関連について事前学習し、講義の中で発表する。
授業内容	公共哲学の歴史と国内外の公共哲学に関する学説について知り、考え方の本質について理解する。(3回目)
事後学習	これまで学習した「市民参加による公共決定」についてレポート(A4版〈400字程度〉用紙で1枚)として作成する。
参考文献	「マイケル・サンデル公共哲学」鬼澤 忍訳 ちくま学芸文庫刊
第5回	
事前学習	日本社会における公共哲学の歴史と公共性を調べ整理しておく。
授業内容	日本社会における公共概念の歴史と公共性の意味を考え、これまで学んだ国外の公共性との対比を行う。日本固有の特徴ある公共観を理解する(第1回)
事後学習	日本社会における公共概念の歴史と公共性の意味を考えまとめる。質問があれば、次回質問を行う。
参考文献	公共哲学とは何か」山脇 直司著 ちくま新書刊
第6回	
事前学習	地方分権・地域主権について、インターネットや新聞等から記事をひろい、講義の際に発表する。
授業内容	日本社会における公共哲学の歴史と公共性の意味を考え、これまで学んだ国外の公共性との対比を行う。日本固有の特徴ある公共観を理解する。(第2回)
事後学習	日本の公共性にかかる課題について、整理する。
参考文献	公共哲学とは何か」山脇 直司著 ちくま新書刊
第7回	
事前学習	日本の歴史観に教育が果たす役割についてまとめておく。
授業内容	日本社会における公共哲学の歴史と公共性の意味を考え、これまで学んだ国外の公共性との対比を行う。日本固有の特徴ある公共観を理解する。(第3回)
事後学習	授業で示す日本の公共性にかかる課題について、レポート(A4版〈40×40〉用紙で1枚)を作成する。
参考文献	「永遠の0」 百田 尚樹 講談社文庫刊
第8回	
事前学習	課題に対する公共性概念の整理を行う。
授業内容	課題に対する公共性についての考え方を自らまとめる。(1回目)その内容を順次発表する。次に班を編成して、グループでの協議を行う。
事後学習	グループの協議が円滑になるように、協議資料を用意しておく。
参考文献	事前に資料を配布する。
第9回	
事前学習	課題に対してグループの協議が進むように論点の整理をしておく。
授業内容	課題に対してグループの協議が進むように論点をまとめる。(2回目)グループにリーダー、書記、報告者を決めて、それぞれに役割に基づいて議論を進め、プレゼンテーションへつなげる。

事後学習	課題に対して個人の意見を見直しながらグループの意見に取り入れる整理を行う。
参考文献	事前に資料を配布する。
第10回	
事前学習	課題に対してグループの協議が進むように論点の整理をしておく。
授業内容	課題に対してグループの協議が進むように論点をまとめておく。(3回目) グループにリーダー、書記、報告者、討議者を決めて、それぞれに役割に基づいて議論を進め、プレゼンテーションへつなげる。グループによる発表を行う。他のグループは反対意見及び賛成意見を述べる。
事後学習	課題に対して、他のグループの意見を参考に改めて、自分のグループの主張の正否について整理する。
参考文献	事前に資料を配布する。
第11回	
事前学習	課題に対してグループごとの発表が行えるように準備をする。
授業内容	課題に対してグループの発表をまとめる。(4回目) 書記により発表用紙を使いながら、グループでの協議内容をまとめる。
事後学習	次回、クラス全員で意見集約を行うための準備を行う。
参考文献	事前に資料を配布する。
第12回	
事前学習	クラス全体で議論ができるようにグループごとの課題発表の内容をまとめておく。
授業内容	課題に対してグループの発表を行う。(5回目) 発表者は決められた時間内で発表を行い、他グループの質問や意見を受ける。他グループでは、質問・賛成意見・反対意見をまとめて、発表者に投げかけを行う。
事後学習	それぞれの班の発表を復習し、評価表に評価を記入する。
参考文献	事前に資料を配布する。
第13回	
事前学習	課題に対する公共性概念の整理を行う。
授業内容	クラス全体で議論し、課題に対するクラスの意見交換を行う。(6回目)
事後学習	クラス全員で出した意見に対し、個人の意見等の差異を明らかにしておく。
参考文献	事前に資料を配布する。
第14回	
事前学習	議論に対する公共性概念の整理を行う。
授業内容	一連の公共性概念獲得のプロセスを振り返り、個人とグループの見解の相違点について、問題点を出して議論を行なう。(7回目)
事後学習	グループの協議によって学んだ事を指定の用紙1枚にまとめて、提出する。
参考文献	事前に資料を配布する。
第15回	
事前学習	公共哲学の講義を通じて感じた事をレポートにまとめて提出する。
授業内容	公共哲学について総合的に理解し、日常生活においても様々な関連について理解する。
事後学習	今日までの14回の公共哲学の講義の中で、印象に残ったことについてまとめる。
参考文献	事前に資料を配布する。
※この他に試験が実施される場合があります。担当教員の指示に従ってください。	
ディプロマポリシー	<p><コDP-2> 【コミュニティ政策学分野における知識・技能・態度】 コミュニティ政策学に関する考え方や基礎知識・技能を体系的に理解し、地域がもつ課題の解決にあたる意欲、能力を身に付けている。</p> <p><コDP2-(1)> コミュニティ政策学の基礎的かつ専門的な知識・技能を体系的に身に付けている。</p> <p><コDP2-(2)> 講義科目で学んだ専門的な知識とサービスラーニング活動を通じて得た実践的な経験を統合し、課題解決に必要な知識や技能を身に付けている。</p> <p><コDP2-(3)> 地域社会の多様な場において、コミュニティ形成の中核を担う職業人としての態度・志向性を持っている。</p>

